

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-2-3 文化芸術の振興
---------	-----------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	社会教育課長 荒木 正秀	電話番号	0852-22-5910
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	ふるさとティーチャー派遣事業		
目的	(1) 対象	児童・生徒	
	(2) 意図	児童・生徒の「豊かな心」を育むとともに、次代の文化活動の担い手を育成する。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な指導者がいない市町村立中学校・高校や県立学校の部活動（文化部）に対し、自立的な活動及び技術・表現力の向上を図るため、地域指導者（ふるさとティーチャー）を派遣し、講師謝金を支援する。 ・中学校文化部活動の活性化と地域社会との連携協力を推進するため、中学校文化部による地域貢献活動や異世代間交流活動に係る活動費を支援する。 		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	全国高等学校総合文化祭への参加部門数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	参加部門数	目標値		13.00	14.00	15.00
			実績値	12.00	16.00	19.00	16.00		
			達成率		123.10	135.70	106.70		%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
									目標値
			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00		%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	9,648	11,580
うち一般財源(千円)	9,648	11,580

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<ul style="list-style-type: none"> ・中学校、高等学校の文化部活動において、学校内で専門的な指導者がいないため、地域指導者（ふるさとティーチャー）への派遣要望が多い。 地域指導者（ふるさとティーチャー）の派遣 【H26年度】 中学校：24校（延べ25人）、高等学校：34校（延べ75人） 【H25年度】 中学校：23校（延べ24人）、高等学校：34校（延べ68人） ・中学校文化部の地域交流事業への取り組みが少しずつ広がってきている。 地域と中学校の文化部活動支援 【H26年度】 実施校：18校（9市町） 【H25年度】 実施校：10校（5市町）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> ・地域指導者に対する謝金や講習会開催経費を支援することによって、文化部生徒・指導者の確保、部活動の維持、活動水準の向上が図られた。 ・中学校文化部の地域交流事業に対する活動費の助成によって、生徒の地域参画を促し、家庭や地域における文化部に対する理解を深めることができた。
--

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な指導者の不在により、生徒への指導が困難な学校が引き続き多く見込まれる。 ・郷土芸能、伝統文化関連部においては、派遣指導なしには部の存続自体が難しくなる。 ・教員の少ない中山間、小規模校においては、文化部活動の選択肢が少ない。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の多忙化や少子化に伴い、専門性のある顧問教員が減少している。 ・音楽、書道、美術等については、非常勤講師の配置が多い。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な実技指導力を備えた地域指導者の派遣が求められている。 ・郷土芸能、伝統文化関連部の存続と若い世代への技能継承を図る必要がある。 ・中山間、小規模校にあってもなるべく格差なく、一定の文化活動を行う機会が得られるように配慮する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> ・派遣事業に対する需要が高いため、今後も地域指導者の派遣・活用を継続実施し、文化部活動の継続と技術力・表現力の向上を図る。 ・地域と中学校との連携は発展途上であり、さらなる活性化のために継続した取り組みを行う。
--

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--